

うぉーみんぐ

NO.34 秋

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。

実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！

特集 地元農産物直売所レポート 南丹市「ふるさと丹波路」



写真

左下・学校給食関係者を対象とした舞鶴漁港での研修

右下・社員食堂関係者を対象とした地産地消勉強会
(関連記事p6・7)

 京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

「京の豆っこ米」でつながる 低炭素型循環の輪、地域の輪

活動レポート

2012年のソメイヨシノの開花調査結果

省エネ相談所のお手伝いに行きました。

京都府立大学と連携して住宅の温熱環境調査を実施。

生産者と消費者の橋渡し!!意見交換会を通じて、京都の食材を知り使おう!

お知らせ

5年目突入、カエデ紅葉日調査にご協力を

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

地元農産物直売所レポート 南丹市「ふるさと丹波路」



今、農産物直売所が注目を浴びています。「とれたて新鮮」「地産地消でCO2排出量削減」など、直売所には魅力がいっぱい！

南丹市にある地元農産物直売所「ふるさと丹波路」の取材レポートをお届けします。

＊「ふるさと丹波路」の成り立ち

JR園部駅から車で15分ほど、国道372号線沿いに「ふるさと丹波路」があります。景勝地「るり溪」に近いこの地域は、もともと西本梅（にしほんめ）村という地名。昭和30年に合併して園部町になり、平成18年には南丹市になりました。

直売所の隣にある事務所にお邪魔すると、運営メンバーの方たちがテーブルを囲んで和気あいあいと談笑されていました。「いつ開店したのですか？」と尋ねると、「今から2年前、平成22年7月や」とのお答え。この年の2月に市議会議員選挙があり、「西本梅地域から議員を出そう！」という話になったのだそうです。約400世帯からなるこの地域は、京都・大阪に通勤する若い世代もいますが、他の農村地域と同様、過疎化・高齢化が課題になっています。「西本梅を活性化したい」という有志が集まってきて、選挙が終わった後に『何かやりたいね』という話題になった「ちょうどそのとき、ここの土地の所有者さんが、地域のためにここを使ってほ



しいと申し出てくれはったんや」—やる気のあるメンバーは行動も早く、選挙の5ヶ月後には直売所オープンに漕ぎつけました。

＊「ふるさと丹波路」の取組

ふるさと丹波路の運営母体は組合員組織。組合員数は約40名で、主に販売利益、助成金、入会金によって運営されています。

農産物等の「直売所」、よもぎ餅や巻き寿司などをつくる「加工場」、ラッカセイやサツマイモを栽培する「観光農園」を運営しています。

直売所には、地元産の旬の野菜、加工食品、地域住民の手づくり品が並べられています。また、地元に移住して来られた陶芸家の方が、毎週日曜日に「移動カフェ」を開店しているそうです。

今回取材にお邪魔して印象に残ったのは、「事業計画や会計資料がきちりしている」「いろいろな特技を持った人が運営メンバーに入っている」ということ。会社や団体でお仕事してきた方たち、家庭の食卓を切り盛りしてきた方たち、そして

農業を営んでいる人たち・・・さまざまな背景を持った人たちが寄り合って、女性も男性もいきいきと活動されています。



＊生産者と消費者をつなげる

「去年は観光農園でサツマイモが豊作でなあ」「そうそう、1000本以上とれてしまって大変やったわ」と語らうメンバーの皆さん。ふるさと丹波路では、京都市内の共同購入グループと連携し、見学会や収穫祭を行うなど、生産者と消費者の交流にも力を入れています。農村地域に消費者が足を運ぶことによって、消費者は、自分の食べものの生産者とコミュニケーションできます。都市からの客にとっては自然体験・農業体験の機会にもなりますし、子連れ客にとっては子どもへの食育・農育の機会にもなります。そしてそれらは、農村地域の賑わいにもつながります。

生産者と消費者が顔の見える関係になり、話のできる間柄になる。今回の取材を通して、検査やトレーサビリティも大切だけど、食の安心安全の源は「行き来できる関係」「人のつながり」なのだと改めて実感。そうしたことを大切に取り組めば、地産地消やCO2削減は、自然と後から結果としてついてくるのではないのでしょうか。取材を終えて直売所を後にするとき、「京都でいっぱい宣伝しといてや！」と笑顔で見送っていただきました。

→ SHOP DATE 直売所「ふるさと丹波路」

住所：南丹市園部町埴生（国道372号線沿い 埴生郵便局近く）

開設日：火・木・土・日曜

開設時間：9：00～12：30



「京の豆っこ米」でつながる 低炭素型循環の輪、地域の輪



昨年度からスタートした「低炭素型 食の好循環プロジェクト」は、食をキーワードに、つくる・はこぶ・たべる・すてる、それぞれのステージでCO₂削減の取組を行い、循環の輪を作ろうという試みです。

今年度は、与謝野町・宮津市・南丹市・亀岡市などをモデル地区として、農機具等でのバイオディーゼル100%燃料（B100燃料）の使用拡

大、社員食堂・学校給食・宿泊施設での地産地消の推進等を通じて地域の温暖化防止を実践していきます。

今回は「低炭素型 食の好循環づくり」実現に向けて、少しずつ地域の輪、循環の輪を構築しつつある、与謝野町の「豆っこ米」を中心とした取組について紹介します。



BDF燃料を使って コンバインを動かす。

与謝野町産コシヒカリ「京の豆っこ米」の生産農家有志14軒が、稲刈りなどの農作業で使用するコンバインなどの農機を、B100燃料で動かしています。

「京の豆っこ米」とは、化学肥料や農薬の使用を控え、魚のあらや米ぬか、おからなどを利用してできた有機質堆肥を使って生産されている自然循環型のお米です。天橋立の内海・阿蘇海の水質汚染予防のため「浅水代掻き（注1）」という手法を使うなど環境に配慮した生産方法で作られています。そして、今回は農機具にカーボンニュートラル（注2）であるBDF燃料で動かすことで、さらに「環境に負荷をかけないお



米」の生産につなげます。軽油からBDF燃料に変更することで、1リットルにつきCO₂排出量が2.64kg削減できます。

例えば、稲刈りで1軒の農家が40リットルのB100燃料を使えば、CO₂排出量が約106kg削減できたことになります。

これは、テレビ（100W）を2000時間以上がまんするのと同じ削減効果です。

注1) 浅水代掻きとは、地域の川や海の水質汚染を防ぐため、代掻き作業の際、土手を高くし、田んぼに入れる水の量を少なく（従来の3分の1程度）して、できるだけ水を外に漏れないようにする方法。

注2) BDF燃料がカーボンニュートラルであるという理由は、大気中に存在した二酸化炭素を吸収してできた植物油を利用しているため、燃焼時に二酸化炭素が出た場合でも、プラスマイナスでCO₂排出量がゼロと考えられるため。



学校給食で地元産 「京の豆っこ米」。

地域でとれたものを地域で食べる。このシンプルな取組が、地球温暖化防止にも繋がります。地産地消を進めると、食材の輸送エネルギーを減少させることができ、フード・マイレージCO₂排出量を削減できるからです。与謝野町の学校給食では、与謝野産「京の豆っこ米」が提供されています。また、その他にも、地元産食材を使う地産地消が進められています。野菜やきのこ類、魚など地元近くでとれた食材を利用していますし、豆腐も地元産豆腐が提供されています。



B100燃料で走る 与謝野町 給食センター配送車。

与謝野町学校給食センターでは2100食の給食をつくり、与謝野町内の2幼稚園、9小学校、2中学校に3台の配送車で配達します。この給食配送車の燃料としてもB100燃料を年間3,600リットル使っているので、9.2 t 相当のCO₂削減に役立っています。



本来なら 廃棄される廃食油を 燃料の原料に。

NPO法人丹後の自然を守る会は、家庭や事業所から出る廃食油回収をしています。回収拠点は1000カ所以上あり、平成23年に1年間で回収された廃食油量は11万1千リットリにもなります。回収した油は、平成18年に与謝野町内に設置した小型製造設備で精製、地域で回収した廃食油を原料として作られたB100燃料を供給しています。つまり、地元で回収した廃食油を地元で燃料化することにより「エネルギーの地産地消」が実現しています。



●「低炭素型 食の好循環づくりプロジェクト」とは？

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、地域で活動するNPOや企業、行政と連携して、「低炭素型食の好循環づくりプロジェクト」を進めるため、平成23年度からきょうと風土（フード）コンソーシアムを立ち上げました。

このコンソーシアムは、「低炭素×循環型農業」と「食の地産地消」を推進することにより、二酸化炭素の排出抑制とともに地域の活性化を図ることを目的としています。



活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

2012年の ソメイヨシノの開花調査結果

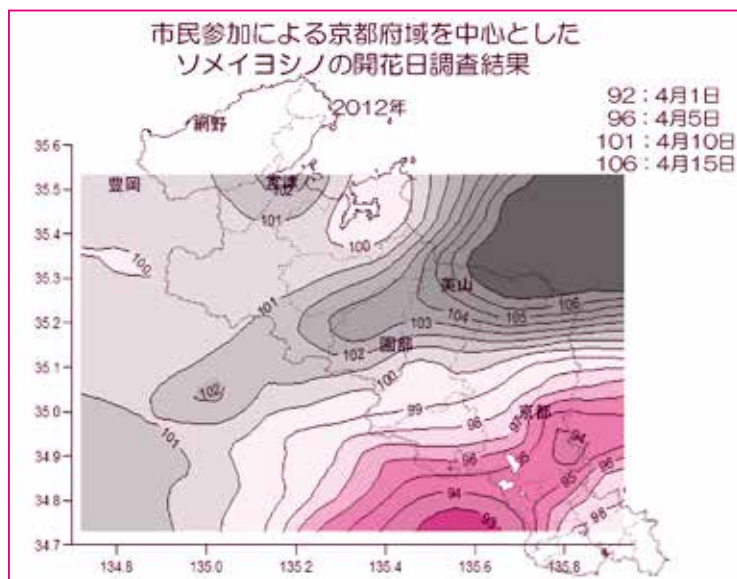
今年度も大勢の方にご協力いただいたサクラの開花日調査。龍谷大学の増田啓子先生より結果のご報告をいただきました。

❶ 京都市のソメイヨシノの開花日は4月3日で、平年や昨年に比べ6日遅い開花、舞鶴市は4月9日で、平年より6日、昨年より4日遅い開花であった。満開日については、京都市が4月9日、舞鶴市が4月12日で、平年より4日遅く、昨年より2日遅い開花であった。このことから開花から満開までの日が短かったことも特徴。

❷ 市民参加者数75名（うち龍谷大学学生5名）

❸ 市民参加による開花日調査地点数53地点（新聞情報等による京都府域を中心とした地点数138地点）。2つの分布図を作成したが、ほぼ同様の分布図となった。地点によっては、新聞情報の地点が多いためにやや詳細な分布図となっている。

❹ 市民参加による満開日調査地点数50地点（新聞情報等による京都府域を中心とした地点数137地点）。同様に2つの分布図を作成し



たが、これもほぼ同様の分布図。地点によっては、新聞情報の地点が多いためにやや詳細な分布図となっている。

❺ 開花分布図から、やはり京都市内（最も早い地点開花日3月31日、満開日4月3日）およびその南部で開花が早く、美山（開花日4月17日、満開日4月21日）が最も遅い開花となった。例年のように京都府域の開花日と満開日に約18日の差があった。

❻ 参考に2012年3月の近畿北部の平均気温分布図を作成したところ、気温の高いところと開花が早いところは一致していることが確認できた。

省エネ相談所のお手伝いに行きました。

7月19日に木津川市役所で、9月15・16日にはSKYフェスティバルで、いずれも地域の推進員さんや省エネ普及ネット・京都の皆さんと連携して省エネ相談所を実施しました。木津川市役所での開催は今年度に入って3回目となり、今回は14名の方が相談を受けられました。また、SKYフェスティバルでの相談所へは両日で200名以上の方が来られ、今年も多くの方に受けていただくことができました。



京都府立大学と連携して 住宅の温熱環境調査を実施。

京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の協力を得て、住宅の温熱環境調査を実施しています。

今夏は、東日本大震災の影響を受け府内の公営住宅に避難しているご家庭の協力を得て、集合住宅においてスタレや手作り内窓を設置する簡単なり

フォームで、室温やエアコンの電力消費量がどのように変化するかを検証しました。

データの詳細な分析は現在進めているところですが、住まい手の皆さんからは、「リフォーム前より涼しくなったと思う」「エアコンが昨夏よりも効きやすくなった」との声をいただいています。

同様の取り組みを、冬季にも実施する予定です。

生産者と消費者の橋渡し!! 意見交換会を通じて、 京都の食材を知り使おう!

環境省の補助を受けて実施している「低炭素型食の好循環づくり事業」の一環として社員食堂や学校給食で京都産食材使用率拡大を目指し、8月に2つの意見交換会を開催しました。

8月3日（金）は、社員食堂関係者を対象に、舞鶴産水産物、京丹波のハタシメジ、京都産豚肉の関係者からお話を聞いた後、大阪ガスクッキングスクールの協力を得てこれらの食材を調理して頂き味を確かめるという勉強会を開催しました。

8月28日（火）には、学校給食関係者対象に、舞鶴漁港まで出かけ、競り市の様子や加工現場の見学会を行いました。学校給食に使える魚についても勉強し、実際調理していただきました。

生産者と消費者が直接顔をあわせ情報共有をすることで、地元食材について詳しく知り、京都府産食材の導入が進むきっかけになるようです。今回は、特に8月28日の参加者から、学校給食で京都産水産物を積極的に取り入れたい、という声が多くあがりました。今秋以降のメニューに京都府産食材が登場すればと期待しています。



★京都府産食材を利用したメニュー



勉強会の様子



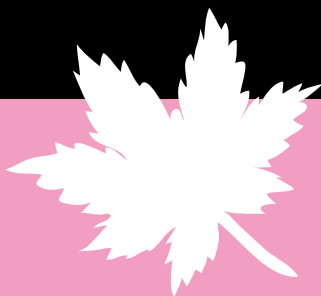
加工現場の見学



市場の見学

お知らせ

Information



！ 5年目突入、カエデ紅葉日調査にご協力を

今年の秋もカエデの紅葉調査を行います。龍谷大学経済学部増田啓子教授と共同調査を始めて今秋で5年目となります。

この調査を開始する時に「定点調査は少なくとも5年以上続けないと経年分析が難しい」という増田先生の見解から、本調査を継続して行うことが重要だと位置づけてきました。今年から参加して下さる方も大歓迎ですが、毎年協力して下さっている方は、ぜひご協力下さい。

調査用紙は温暖化防止センターのwebサイトからダウンロードできます。<http://www.kcfca.or.jp/>

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成24年秋号 平成24年10月発行(年4回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長：郡崙 孝 運営委員長：浅岡 美恵

〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目283番4

TEL：075-211-8895 FAX：075-211-8896

URL：<http://www.kcfca.or.jp> E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴 伊東真吾 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 瀬上佑樹 吉川春菜

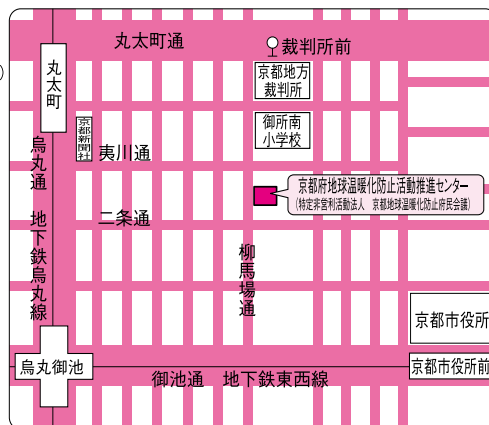
法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！

年会費 正会員(個人)：2,000円 正会員(団体)：3,000円

準会員(個人)：2,000円 準会員(団体)：3,000円

賛助会員：10,000円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率100%の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

